

3 学 期	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 ①微分係数 ②導関数とその計算 ③接線の方程式 第2節 関数の値の変化 ①関数の増減と極大・極小 ②関数の増減・グラフの応用 第3節 積分法 ①不定積分 ②定積分 ③定積分と面積	○極限値を計算して微分係数を求めるとき、分母の h は0でないことを理解している。 ○平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ○微分係数の図形的意味を理解している。 ○定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。 ○導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 ○導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。また、微分係数の値などから関数を決定することができる。 ○導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。 ○関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。 ○導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。 ○関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。	○	○	○	27
	定期考査		○	○		1